

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内  
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)  
<http://www.dosyakyou.org/>

第123号

## 第61回写真道展にむけて

審査委員長 中野潤子



### ■写真道展に向けて 会員の皆さんに期待すること

ある美術評論家が、「公募展の必勝法はその  
展覧会の過去の入賞、入選作品の傾向を知る  
ことである。その上でモチーフや手法を考える  
と、公募展に入賞したり入選することは容易  
である」と述べています。この評論家の真意は、  
傾向と対策による出品方法は少なくとも芸

術を志す者として避けなければいけないと言  
うことでしょうか。同じことが写真道展の出品  
にしても言えると思います。入賞や入選するこ  
とを願うあまりに、主体性を失った作品を出  
品することはこの評論家の言を借りると、極  
めて残念なことと言えるでしょう。また写真  
道展にはツアーに参加して撮った写真が少な  
からず出品されています。時には全く同じと  
いつてよい程の作品が複数の出品者にみられ  
ることがあります。写真における今日的な最  
大の課題は、その作品にオリジナリティがあ  
るかでしょうかと言うことです。作者の独自性  
そが作品の生命線であると思います。このこと  
はツアーの写真を否定することではありません  
ん。ツアーに行った時、他の人と同じ方向にば  
かりレンズを向けるのではなく、自分の目や心  
で捉えたさまざまな感動を被写体に盛り込む  
ことが大切だと思います。その時、同じ場所、

同じ被写体を撮っても他の人とは違う自分独  
自のオリジナリティの表現になることでしょ  
う。写真道展の入賞、入選作品は総勢30人近  
くの当番審査員の合議によって決定されま  
す。従って、いち審査員の主観が優先するとい  
うより、審査員の平均的な価値観が結果を決  
めることとなります。平均的な価値観が最高  
の作品を選出するとは限りませんが、何人か  
の複数の審査員の推薦があることで、その作  
品に客観性が生じます。この客観性が写真道  
展の審査の根底にあります。

### ■60年の歴史と伝統

ところで写真道展は60年の歴史と伝統を  
有しています。戦後の荒廃した世相の中で、写  
真による新しい文化の創造を願って写真道展  
を創設した先人に改めて敬意を表することも  
に、61回という新しい暦を開いた本展こそ、作  
品制作の志を創設期の新鮮で想像豊かなもの  
に立ち返っていただきたいと強く希望します。  
美の創造は新しい美を発見することです。被  
写体に向かう姿勢のいかんによつて新しい美  
の発見が可能となるでしょう。その姿勢を正  
すことで写真道展の出品内容もより豊かで奥  
深いものになると思います。写真のモチーフは  
限りなく存在します。もつとも凡な私には新  
しい美を発見することは容易ではなく、日頃  
悩むことが多いのですが、その悩むことこそ撮  
影姿勢を直すことになると私は信じていま

す。一点一点の作品に自分の思いを込めること  
が、公募する人の最も大切なことではないでしょ  
うか、また近年、文化のグローバル化が目ま  
ざりしています。このグローバル化は自らの足元を  
知ること、確かめることが基本となります。写  
真道展も他の芸術文化の分野と同じく、グ  
ローバルなものにならなくてはなりません。し  
かし、それは同時に私達が住む北海の地をよ  
く知ることであり、自分が愛する故郷に深い  
愛着と畏敬の念を抱くことです。北海道はネ  
イチャーフォートの宝庫と言われていますが、魅  
力溢れる北海道だから作品になるのではな  
く、自分にとつて愛してやまない限りない感動  
があるから作品になることを、本展を通して  
広く衆知させてほしいものです。私達が限りな  
く愛する北海道を対象とした秀作が見られ  
ることを楽しみにしています。

最後に、出品者の誰もが知っていること  
が、本展は3部門制になっています。この3部  
は明確な仕切りがつけ難い問題を有していま  
す。しかし、あくまでも要項の規定に添うこと  
を前提にしながらも、出品者が主体的に部門  
を選択することも可能です。

近年の応募傾向をみますと、会員の皆さん  
より一般の応募者の方が多く、多少推され気  
味です。ただし、入賞率は会員の皆さんの方が  
だんぜん上です。今回展こそ各支部で厳しい研  
鑽を積み重ね、互いに切磋琢磨している会員  
の皆さんの一層の躍進を期待します。

## 私が期待する写真

## — 招聘審査員から

意欲ある新鮮な作品を

岸本日出雄



第59回に続き  
審査をさせて頂  
きます。前回を  
思い出します  
と、まず目を引  
いたのは応募数

の多さでした。

応募者の被写体を追い求める気迫と努力  
のすばさに圧倒されました。

上位入賞者の卓越した感覚は素晴らしく  
感心しました。しかし作品の中には新鮮さを  
欠いたものが少なくなく、少々残念な印象を  
もちました。

第一に多数の類似作品の存在が気になり  
ました。聞くところによりますと、撮影ツ  
アー参加者の応募が増え、同じ被写体を狙  
うことから生じる弊害の一つなのだとのこと  
です。しかしツアーだけに限らず、過去の入賞  
作品に引つ張られてしまうせいか、イベント、  
撮影場所や素材など被写体の偏りも目に付  
きました。致し方ないでは済ませたくない問

題だと感じました。

作品づくりで忘れてならないのは制作ポイ  
ントなどの知識を習得するだけに留まらず、  
さらなる高みを目指す姿勢であり、意欲で  
す。

デジタルカメラで撮影がとても簡単にな  
り、決定的な瞬間や、またとない一瞬を捉えた  
ものが溢れている感があります。そうした昨  
今だからこそ、撮影する情景の奥に潜むもの  
を引き出す感性を磨いて欲しいと思うので  
す。奇を衒うというのではなく写真の可能性  
を広げた作品の登場を期待して止みません。

## 次世代への働きかけ

私が所属する日本広告写真家協会では美  
術や図工の教育にカメラの導入を働きかけ、  
小・中学生に「カメラを使った情操教育」を試  
みています。

写真を通して「考える力」「観る力」「生き  
る力」を育むことをテーマに掲げています。小  
さい頃から写真を学んだ子供達が、将来、道  
展にも出品する力をつけるよう、裾野が広  
がってくれることを願っています。

写真道展に応募の方々の方々の更なる発奮が望  
まれます。ユニークで斬新な切り口で北海道、  
北海道入、北海道生活を表現した作品が

もつと増え、上位入賞争いがさらに高いレベ  
ルで激化してくる、それが私の願うところで  
す。

## 写真は心を写してる 野呂希一



私は雑誌の撮  
影取材、フィルム  
メーカーや写真  
誌のセミナー、  
審査などで全国  
各地を旅してい

ます。熱心な写真好きの方々との話でよく耳  
にするのは「北海道で写真を撮りたい」という  
声です。

内地のカメラマンには北海道は羨望の地な  
のです。でも魅力なのは北海道のスケールや  
自然度で、観光の延長にすぎません。

全国各地を撮り歩いて比べてみると、一番  
の違いは空気かと思えます。冬だけではなく  
四季を通じて北海道の空気は明らかに内地  
とは違います。

「写真は光だ」と言われます。それはもちろ  
んですが、それよりも「写真は空気」を写して  
いるのだと思っています。空気感の少ない写  
真は、人の心に伝わらないようです。風景やネ  
イチャーに限らず、生活や人物、静物の写真

であつても空気感の表現は大事かと思いま  
す。

写真道展はベテランが多く、作品はかなり  
高いレベルですが、その弊害というか、ハイレベ  
ルになるほど類型的な傾向になつてしまふよ  
うです。すこくうまいんだけど、どこかで見た  
ことあるような・・・それはある意味、頂点と  
いえるのかもかもしれませんが、そこをどう乗り  
越えるかが鍵ですよ。そこでアマチュアの  
原点に戻ってみると、熱中して楽しむこと、  
カメラを持つて出合いを求め感動を写して  
表現することだったのでは？。

## 素直に自己表現を

写真は空気を写すと言いましたが、写真は  
撮り手の心が写るものでもあります。すこ  
い！うまい！を追求することに力が入りすぎ  
て、自分の心が写っていない写真は、自分の作  
品と言えないのかもしれない。冒険的な姿  
勢は必要ではありませんが、無理に独創的を追  
求するよりも、素直に自己表現することが、  
他人には真似のできない「個性的な作品」に  
なるのだと思えます。奇をてらい、目立つこと  
が個性ではないですよ。あついいね！こん  
なの好きです！を追求して、素直で個性的  
な、北海道の空気をたっぷり含んだ北海道発  
の作品を期待しています。

# 支部探訪―函館

支部長 松山 浩司

## 例会で士気高揚

函館支部は、現在一般会員男性10名、女性5名、審査会員3名で活動しています。過去には30名近い時代もありましたが、近年は高齢や体調を壊した方などが相次ぎ、減少傾向なのが寂しいところです。

例会は年6回。各人撮りためた写真の中から、3枚を例会に持ち寄ります。道展のジャンルと同じスタイルで、第一部〜第三部までの部門を表示・タイトルを付けます。A4、四つ切りサイズの他に、ワイド四つでの参加も認めています。そして並べられた作品をまず全体で鑑賞。

各自規定の枚数の投票札をお気に入りの作品に置きます。

投票札が置かれた作品を入選作として審査員に、第1席、第2席、第3席を選出してもらい、講評をしていただきます。入選以上の作品にはポイントがつけられ、年間得点賞を発表したり、年間最優秀作品を選出するなどの表彰を行い、会の士気高揚に努めています。

## 親子で支部大賞・準大賞

地方の公募展や全国の写真誌等で活躍さ

れている方もおり、また母娘で支部会員として参加されている岩佐敏子さん、岩佐多江子さんが今年揃って支部の年間最優秀の大賞、準大賞を受賞するなど様々なキャラクターの方が会を盛り上げています。



親子で活躍、岩佐さん

撮影会ですが、これまで「函館 HALFマラソン大会」などの撮影をしてきました。また、土地柄かと思いますが、東北地方に出かける方も多く、思い思いに桜や風景の撮影を楽しんでいます。最近では諸事情で全体としての「撮影会」が企画できていないので、いろいろなアイデアを駆使して活動していきたいと思っています。

また、「写真道展函館巡回展」で今年は北海道新聞函館支社の協力でチラシやポスターを作成し、関係機関に置いて頂いたこともあり、大幅に入場者を増やすことができました。

## 新たに「函館支部会員展」

さらに今年新たに「支部展」を企画開催しました。これまでは「巡回展」の折に、支部会員の作品を飾るコーナーを設けてきただけでしたが、今年は単独で「道写協函館支部会員展」を五稜郭タワーにあるアトリウムで行い、観光客や地元の人々に好評を博しました。

支部の課題は、とにかく会員をひとりでも多く増やすために、支部活動をアピールする場を増やしていくということと、こうした活動をまた来年以降もぜひ続けていきたいと感じています。

## 写真展 案内

○大崎和男 鉄道写真展 帯広支部

会 期 開催中(2月2日(日))

会 場 ニセコ町有島記念館

かつて鉄道機関士だった作者の愛着のある鉄道写真の中から厳選。

## 写真展開催の方お知らせください

編集担当

山本▼(011)386・6322

メールアドレス:yama-98@nifty.com

## 「わが家の夏休み」作品展を開催

写真道展60回記念事業の一つ、写真コンテスト「わが家の夏休み」の入賞作品が9月26日から10月1日まで道新プラザに展示されました。どこの家庭にもある「記念写真」を通じて広く写真への関心を高め、その魅力を感じてもらおうと企画したものです。

写真家の谷口勲夫さんを招いて審査会が開かれ、31点の入賞・入選が決まりました。



最優秀賞「じいじの海」 札幌 片岡美智さん

子供の眼、ママやおじいちゃんの眼から捉えたほのぼのとした内容の作品がほとんどで、写真道展とは違った新鮮な作品に微笑ましい思いでした。この企画で新たな経験と教訓が得られましたことを報告します。

# 支部例会フォトコンテスト 入賞・入選作品

平成25年5月～11月



審査風景



1席「影は楽しい」(カラー) 松本雅彦(札幌)

## ■支部フォトコンテスト審査発表

北海道写真協会副会長 本郷正利

平成25年度支部長会議において、支部フォトコンテストの開催について提案承認されました。

支部例会の活性化と、支部会員の切磋琢磨を図り、写真技術の向上が図ればと企画したものです。全道各支部より、本年5月から11月までの支部例会3席以上の作品を募集したところ、11支部より158点69名の支部会員から作品が寄せられました。12月11日(水)北海道新聞社会議室において、岩井直樹写真部部長の審査により、武藤会長他事務局立ち会いにより執り行われました。

各支部例会の上位作品という力作ぞろいので、以下の会員、支部が難関を突破し、入賞の榮譽に輝きました。

### ◆個人賞

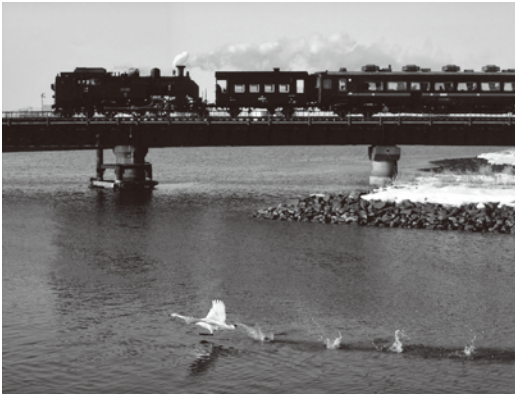
### ◆支部賞

- 1席 松本雅彦(札幌)
  - 2席 林田定昭(釧路)
  - 3席 清水 孝(帯広)
  - 友広茂夫(岩見沢)
  - 大場宏道(苫小牧)
  - 鳥海政史(室蘭)
  - 畑 忠幸(留萌)
  - 安田敏彦(札幌)
  - 宗山和夫(函館)
- 1位 札幌支部(13点)
  - 2位 室蘭支部(11点)
  - 3位 釧路支部(8点)
  - ※1席(10点)2席(8点)
  - 3席(6点)入選(3点)
  - ※表彰式は平成26年度支部長会議(総会)で行います。
  - ※個人賞の表彰は3席までとなっております。

### ■講評

北海道新聞写真部部長 岩井直樹

- 1席▼松本雅彦「影は楽しい」…子供の影に襲いかかるような影の手。計算された構図で影をうまく表現し、おもしろい作品になりました。
- 2席▼林田定昭「帰路伴走」…釧路川の鉄橋をバックで走るSと水面を駆けるように飛び立つハクチョウが競っているかのようです。
- 2席▼長澤 剛「波紋」…揺らいだ水面や鏡のような水面に、映し出した雲の対比が良いですね。水面の「静と動」をうまく表現しています。
- 3席▼清水 孝「ひ孫」…ひ孫を抱きかかえる手のしわが、人生の年輪を感じさせ、ひ孫への思いや暖かさが伝わってきます。
- 3席▼友広茂夫「雨上がり」…色づいた北大のイチヨウ並木。水たまりに映る黄金色のイチヨウに赤い傘がアクセントになっています。
- 3席▼大場宏道「とんぼ咲く」…愛を育んでいるかのように、草にとまていてつがいのトンボ。自然の営みをうまく捉えています。



2席 「帰路伴走」(カラー) 林田定昭(釧路)



2席 「波紋」(カラー) 長澤 剛(室蘭)



3席 「ひ孫」(モノクロ) 清水 孝(帯広)



3席 「雨上がり」(カラー) 友広茂夫(岩見沢)



3席  
「とんぼ咲く」(カラー)  
大場宏道(苫小牧)



入選  
「これでどうだ」(カラー)  
鳥海政史(室蘭)

入選  
「泣く」(モノクロ)  
畑 忠幸(留萌)



入選  
「次なる命へ」(カラー)  
安田敏彦(札幌)



入選  
「街角情景」(カラー)  
宗山和夫(函館)



### 支部例会成績

#### 札幌 支部長 山本隆晟

- ▽8月例会16日 河江利幸審査員選考)
  - ①三橋和雄②砂澤一彦③今明美④安田敏彦⑤村上和子⑥寺地栄⑦幾田祥健⑧坂本幸夫⑨澤田満起⑩廣岡尚
- ▽9月例会20日 加賀谷重雄審査員選考)
  - ①坂本幸夫②松本雅彦③今明美④幾田祥健⑤小賀野京子⑥山形典夫⑦三橋和雄⑧香取征子⑨村上和子⑩員沼正雄
- ▽10月例会18日 中野潤子審査員選考)
  - ①小賀野京子②砂澤一彦③安田敏彦④山本隆晟⑤鎌田美智⑥堀江和彦⑦山形典夫⑧香取征子⑨真征子⑩土橋丈二
- ▽11月例会15日 経塚剛敏審査員選考)
  - ①山形典夫②荻田貞子③安田敏彦④香取征子⑤難波江⑥今明美⑦廣岡尚⑧砂澤一彦⑨山端鉄朗⑩武田礼子

#### 旭川 支部長 馬場和美

- ▽8月例会8日 田村健太郎審査員選考)
  - (二席)田中昭一(特選)池田政人 吉田祥子 田中昭一 佐藤繁雅 (入選)森田正義 三本芳男 菅原清弘 早坂藤男 伊藤勝利
- ▽9月例会12日 志賀芳彦審査員選考)
  - (二席)菅原清弘(特選)池田政人 田中昭一 森田正義 宮崎章子 (入選)三本芳男 伊藤勝利 森田正義 細川貞子 阿部三重子
- ▽10月例会10日 田村健太郎審査員選考)
  - (二席)池田政人(特選)田中昭一 白鳥敏昭 鈴木幸雄 (入選)宮崎章子 阿部三重子 三本芳男 伊藤勝利 細川貞子 田中昭一
- ▽11月例会14日 志賀芳彦・田村健太郎・福田光男審査員選考) (特選)①早坂藤男②佐藤繁雅③三本芳男⑤田中昭一(入選)吉田祥子 三本芳男 白鳥敏昭 池田政人 小山満 細川貞子
- ▽平成25年度賞
  - (年度賞)田中昭一(準年度賞)白鳥敏昭(最高作品賞)吉田祥子(奨励賞)池田政人(敢闘賞)三本芳男(新人賞)小山満

#### 岩見沢 支部長 尾崎和男

▽7月例会(10日 審査互選)

#### 釧路 支部長 浅海信一

- ▽8月例会8日 奥野時夫審査員選考)
  - ①林田定昭クナシリを望むジャンプ②松坂正彦③松本紀幸④水谷博之⑤長尾芳文⑥北橋善郎
- ▽10月例会(10日 工藤二男審査員選考)
  - ①越上太郎(屋根の上の名月)②松坂正彦③林田定昭④浅海信一⑤水谷博之⑥蝦名昇



9月支部撮影会 推薦「天空の空」(カラー) 古平文男



10月例会 1位「屋根の上の名月」(カラー) 越田太郎



8月例会 1位「クナシリを望むジャンプ」(カラー) 林田定昭

#### 三笠 支部長 伊藤修身

- ▽25年度支部撮影会(9月27日 和泉拓男審査員選考) (推薦)古平文男「天空の空」

(特選)上田進 川原民也 (準特選)金武紀雄 谷内純哉 (入選)上田進 当銀敏人 石橋昭二郎 伊藤修身 古平文雄 金武紀雄

#### 小樽 支部長 川原静雄

- ▽9月例会4日 滝野邦保審査員選考)
  - ①高橋省三②佐藤元彦③藤田哲④松居秀昭⑤鹿戸芳之⑥小泉和子⑦成沢克朗⑧嵯峨秋雄⑨白石純⑩本田恭子
- ▽11月例会6日 本郷正利審査員選考)
  - ①高橋省三星吹雪②嵯峨秋雄③成沢克朗④鹿戸芳之⑤小泉和子⑥松居秀昭⑦藤田哲⑧白石純



11月例会 1位「星吹雪」(カラー) 高橋省三

#### 恵庭 支部長 西澤 實

- ▽9月例会(14日 審査互選)
  - ①吉村登美子②五東建夫④加藤憲秋⑤目黒健二⑥塩田直⑦佐野ミヨ⑨小坂橋勝⑨吉村剛
- ▽11月例会(2日 加賀谷重雄審査員選考)
  - ①吉村剛②目黒健二③村井正人④加藤憲秋⑤吉村登美子⑧山下支朗⑨佐野ミヨ

#### 栗山 支部長 黒田幸則

- ▽6月例会(19日 山田浩久友選考)
  - ①会員外作品②黒田幸則③中島武士③齋藤優子③会員外作品(入選)中島武士 黒田幸則 齋藤優子 高橋勝雄 会員外作品3点
- ▽9月例会(18日 山岸幸雄審査員選考)
  - ①齋藤優子②黒田幸則③会員外作品(入選)黒田幸則 齋藤優子 高橋勝雄 中島武士 会員外作品3点

#### 余市 支部長 金子勝彦

- ▽9月例会16日 審査互選)
  - ①後藤芳江②美濃英則③丹野光雄④金子勝彦⑤谷橋準一⑥石岡誠三⑦谷橋誠子
- ▽10月例会14日 審査互選)
  - ①石岡誠三②谷橋誠子②美濃英則②丹野光雄④谷橋準一⑤二戸弘利⑦金子勝彦
- ▽11月例会(17日 審査互選)
  - ①石岡誠三①丹野光雄③谷橋準一④後藤芳江⑥谷橋誠子⑥金子勝彦⑦二戸弘利

#### 室蘭 支部長 佐々木 昇

- ▽7月例会(24日 浪岡和雄審査員選考)
  - (二席)山田しげき (二席)成田正利 鳥海政史 (三席)三浦和司 工藤司郎 (入選)大坪恵子 佐藤俊晴 多田逸三 成田正利 田村謙次 長澤剛
- ▽9月例会(20日 中西勉審査員選考)
  - (二席)森美津雄 (二席)山田しげき 長澤剛 (三席)成田正利 田村謙次 長澤剛 (入選)三浦和司 森美津雄 成田正利 長澤剛
- ▽11月例会(22日 浪岡和雄審査員選考)
  - (二席)成田正利 (二席)成田正利 長澤剛 (三席)三浦和司 工藤司郎 田村謙次 (入選)長澤剛 三浦和司 工藤司郎 田村謙次 森美津雄

#### 留萌 支部長 崎出恒夫

- ▽8月例会(11日 審査互選)
  - ①松葉師正④加藤美佳
- ▽9月例会(8日 審査互選)
  - ①畑忠幸②高山亮太⑤川上正巳④澤岡政江
- ▽10月例会(6日 審査互選)
  - ①畑忠幸②川上正巳③澤岡政江
- ▽11月例会(10日 審査互選)
  - ①松葉師正②澤岡政江②畑忠幸③加藤美佳

#### 編集後記

今年も多くの皆様から原稿をお寄せいただき感謝致します。  
平成25年もあとわずかとなりました。  
会員の皆様よき新年をお迎え下さい。 森田